

第1回 加西市地域創生戦略会議 会議録

日 時	平成27年5月28日（木） 19時00分～21時00分
場 所	加西市役所1階多目的ホール
出席者 職・氏名	委 員 永田 岳巳、玉田 啓子、千石 唯司、池田 義人、久米澤 稔、 立花 莉絵子、西脇 亜李沙、小松原 綾子、吉岡 猛逸、半井 孝明、 柳原 正英(代理出席)、田端 和彦(会長) (12名) 事務局 西村和平市長、一幅孝明理事、西岡義信ふるさと創造部長、千石剛人口増 政策課長、小菊啓靖課長補佐、小林和敏主任、小山映まちづくり専門員
議 題	(1) 戦略会議の設置について (2) 加西市地域創生戦略の骨子案について
配 布 資 料	資料 1 加西市地域創生戦略策定の進め方 資料 2 加西市地域創生戦略(仮称)【骨子案】 資料 3 加西市地域創生戦略会議設置要綱

1 結果概要

加西市の地域創生戦略策定の進め方、骨子案等について、資料に基づき事務局より説明した後、各委員により、加西市の地域創生戦略の方向について、意見交換を行った。

2 挨拶

○市長

皆さん、こんばんは。それぞれお仕事お持ちの方ばかりだと思います。仕事を終わられて一日のうちでくつろがれる時間でありますのに、第1回の加西市地域創生戦略会議ということでご出席をいただきましたことを心から感謝申し上げます。また、それぞれ今日ご出席いただくためにそれぞれの組織、団体に委員就任をお願いしましたところ、快くお引受けいただきまして本日ご出席ということになっております。心から感謝を申し上げる次第でございます。

この地域創生戦略会議ということで、国が全国各自治体に総合戦略あるいは人口ビジョンをつくらうじゃないかという呼びかけをしております、それに呼応したものでございますが、私が今の加西市政の課題として一番大事に思っておりますのも、加西市の本当に今後のあり方をしっかり定めていくこと、そしてその方向を5万人都市の再生ということで思っております、4年前の選挙でもそういう訴えをさせていただきました。今回、5万人ということから遠ざかっておるといことでいろんなご意見をいただきました。そして、選挙、どういう目標を持ってやるかということでいろんな議論をしましたが、最終的に同じ5万人都市再生という目標でやるということで私は訴えさせていただきました、幸い当選することができました。引き続き、私としてはそういう方向で頑張っていきたい、そういう意味では今回の人口ビジョンの方向性も、2060年に5万人をめざすということを明快に掲げてやっていきたいなと思っております。

この4年間の加西市の歩み、国より私としては先駆けてこの人口問題あるいは地域の活性化の問題に取り組んできたという少しばかりの自負はございます。そして、わずかではありますがその人口に対しても成果が少し出てきておるといことであります。国のほうはやはり国全体の社会のあり方といえますか、このまま何もしなくてありのままといえますかそのままいけば、日本が消滅し

てしまうということであろうと思っております。日本の持続可能性をやはり高めていかないとだめだということで、2060年の人口1億人という目標も設定されたと思っております。

私の場合は、当然5万人ということは、5万3,000人加西市におった時代があるわけでありまして、またどんどん人口が減っていくことは加西市のやはり住みやすさも悪くなっていくという思いと同時に、当時やはり近隣市町に結婚して転出してしまうという方が本当にたくさんおられました。そういうことはやはり加西市の市政のあり方として大変問題があるという問題意識で、早期にその状況は解消しなければならないということでやってまいりました。そして、近隣東の3市、少し北の市も含めて3市に対する人口の流れは大きく留まってきました。かえって加西市の方に流れておるとするのは、26年度の人口の動態の中ではしっかり出ております。また、転出転入の社会動態の状況でございますが、17年ぶりに178人という転出超過という状況でございましたが、これは本当に17年ぶりの低水準ということになりました。そういう意味では様々な角度で、まずは子育てあるいは定住促進あるいは就業支援いろんなことをやってまいりましたが、そういうことが少し成果となって出てきておるのではないかなと思っております。

しかしながら、5万人という今4,000人少しというオーダーを達成するためには、通常の今までの努力ではこれは難しいというふうに思っておりますが、有利な状況は冒頭に言いましたように国がもう大きく方向を変えてきておる、地方に人の流れも雇用の流れもつくと、そして数値目標もあげておる、具体的施策も今から出てくるということでもありますので、地方に人の流れが出てくることは間違いなく思っております。その人の流れが加西市に来るかどうかなというところが非常に大事なことであるというふうに思っております。そういう社会の変化を加西市としては有利に働いておると思っておるんですが、それが先行して意識を持って取り組んできたことが、全国的にはよりいい効果になるのではないかなというふうに思っておるところであります。

4年前に就任して、すぐに企画部門をふるさと創造部という部にしまして、人口増政策課というずばりそのものの課もつくりました。今回も機構改革でその名前を変えてはおりません。そういう意味で、しっかり意識をしながらやっていくということがまず何よりも大事でありまして、そして人口増対策本部というものを立ち上げまして、そして一昨年に国より1年早くふるさと創造条例というのを議会に提出しまして成立もしております。まちづくりもしっかり、地域のまちづくりもしっかりやりながら人口増という課題に取り組んでいくということの意志の表明でございます。

国は、昨年まち・ひと・しごと創生本部あるいは創生法をつくられておりますが、1年早く我々としてはそういう条例とかそういう枠組みをつくってきたということで、この国の流れが我々にいい方向に力を与えていただけるのではないかなと思っております。しかしながら、現状をやはりしっかり分析するといいますか、現状をしっかりとまずわかるということが大事でありまして、人口増の課題に対してもより緻密な分析に基づいて、的確な施策を是非とっていきたいというふうに思っております。そういう意味で、この戦略会議が大変重要な会議になるというふうに思っております。皆さんの英知を本当に結集しながら加西市を本当に活性化していきたいなというふうに思っておるところでございます。

十分な議論を本当にするための時間を確保できるかどうかというところが非常に大事なんですが、皆さんにもタイトなお願いをするかもしれませんが、ぜひ意のあるところをお汲み取りいただいて、いい議論ができて、いい人口ビジョン、そして加西市の総合戦略ができますことを心から本当に期待しております。皆様のご協力を心からお願い申し上げまして、この総合戦略、地域創生戦略会議の発足に当たりましてのご挨拶とさせていただきます。皆さんよろしくお願いいたします。

○会長

先ほどご紹介いただきました田端でございます。皆様のご推挙という形になると思うんですけれども、会長ということで務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。この会、また後でご紹介があると思いますが、大変短い期間で決めなければいけないことがたくさんございます。しかも、これだけたくさんの方々の立場の方々が集まるというところがございますので、皆様忌憚のない意見、そしてこれはすごいなっていうアイデアがたくさん出てくればいい案がまとまっていくんじゃないかなと思っておりますので、よろしくお願いいたします。それを取りまとめるのが私の役割だと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

3 会議内容

(1) 事務局説明

加西市の地域創生戦略策定の進め方、骨子案等について、資料に基づき事務局より説明。

(2) 意見交換

○会長

骨子案という形なんですけど、要するに報告書のイメージというところだと思います。このあたりは、行政のうまいというか上手なところで、大体こういうふうな内容のものをつくりますよということになっています。ここで書かれているのは、基本的な考えをどうするかというところ、それから現状と将来推計、そして重要な点として人口展望と基本方針という形になります。基本方針に基づいた具体例というのが、事務局側が考えている報告書の先ほどスケルトンと骨子案とおっしゃってましたけど、そういう形になります。基本的には、多分他の市町を見ても恐らく同じような形になるだろう、つまり現状がこうなっていて、この市ではどういうふうな人口的な、これ人口フレームといいますけれどもをつくっていくんだらうかということも踏まえて、そしてそれに基づく戦略を考えていくということになるわけなので、恐らくどの市でも大体同じようなパターンになります。若干のもちろん違いはあると思いますが、なるだろうというふうに思います。

本市の場合は、最初に西村市長のほうからご挨拶がありましたように5万人都市という非常に大きな目標といいますか、枠組みを持って、それをかなり取り入れた形になっているのが、市からのご提案ということになります。もちろん、これについてそれぞれの様々なご意見もあろうかというふうに思いますけども、現状こういうことがご提案ということでございますので、それを踏まえて、ちょっと皆様方からご議論をいただきたいと思います。全く何もないところからご議論するというのはなかなか難しいところでございますので、こういったご提案を踏まえてご議論いただければなというふうに思っております。いかがでしょうか、何かご意見、あるいはご質問をお願いをしたいというふうに思いますが、いかがでしょうか。

○委員

まことにいいことだと思うんです。5万人都市再生というのはね。だけど今4万6千幾らしかないというのが現状で、それをやるには、多分今こんなことをたくさん1時間弱かけて話しがあったけども、これでは無理やと思います、はっきり言って。北播地域の人口が、前も私こういう会議に出ましたけども小野市がどないやと、加西が負けてると、もっと学校、病院代をただにしたれとか、そしたらこっちへ来るやないかとかいうてそういう話を色々したら、そんな北播のところで人を取り合いしたってどないなるんやという意見を言いほりましたわ。加西市だけのことでちょっとした

ことやったって、隣の市も皆同じことをやりますわ。それは取り合いになるだけのことで、だからそういうことでは、やるんやったらもう思い切って税金を半分や、市民税を半分にしてもらうとか、よそがでんきんやうなことでもやらないと、それはもう1億2,000万のやつが1億人をキープするの大変やと。

兵庫県も100万人減るということで、山間部の人口はもっと減るんやったら、本当に金でも出てくるとか、何かそんなことでもないかね。だから、夢の5万人で夢の計画やったらいいけど、本当にやっていくんやったら、いろんな政策を本当によその、近隣の市がまねをできない特別な何かカンフル剤をもってやらないと、僕は絶対できへんと思うんやわ。有識者が集まって何回も会議しても、もったいないんやないかなと。

やるんやったらとことんやっていって、それは市がやれるかやれへんかわからへんけど、それぐらいなことを腹をくくって皆さんで討議してやらないと、本当に5万人はいいことです、これ。恐らくこれができたら日本で一番やろな。この田舎の中で、4万6,000のところが5万人になったら夢のようなことやけど、それをやるんやったらやっぱりそれは相当知恵を絞ってその気になってやらないと、今の市のあんたらのやってるやつだって、これはもういろいろどこから引っ張ってきたやつを皆集めて、こんなんでは絶対いかんと思う。経営者やから、こんな計画書きよったら、あほかいと突っ返しますわ、僕が。できるわけないやないか。今の実力はどないやと。

だから、市長がやれと言うのやつから、それもほんまできるのかと。お金の問題もいろいろあると思うんです。いろんなことをやってやらないと集まらない。それも、だからほんまにやるのかどうなのかということです。会長。それやったら、議論してやったらいいと思うんです。

○会長

ご指摘としてやっぱり戦略的思考が要るんじゃないか。つまり、5万人というちゃんとした戦略目標を立てたら、それに何が適切なものであるかを考えるべきだというのが、経営者としての立場としてのおっしゃるところは、多分当たってるだろうと思います。

○委員

ちょろっとしたものでは、僕はいかんと思うんです。

○会長

そのためには、他にはないものを出さなければ、それも多分当たってるんだろうと思います。

今日は、先ほど最初に申し上げましたそういったアイデアを出していただきたいというところだったので、先ほど税金のことをおっしゃられました。税金半分、僕は非常におもしろいと思うんです。ただ、そのときにメリハリある税金半分かというんです。それ、どんな人に来てほしいかというのがあると思うんです。例えば、じゃもう若い人は税金半分だというのは、一つ面白いと思いますし、そういうふうに考え方を多分非常にこういういろいろアイデアをどんどん出していたいて、肉づけをしていこうと。

○委員

とっぴなことでもやらないと、それは難しいと思います。多分、北播を見てはる方から、加西市はえらいことを言うてるなという感じで思っとるやろうなと思うてるのやけどね。

○会長

なかなか、これ税金半分は難しいところはあるんですが……。税金を半分にすれば若者を対象にするなど趣旨に沿った内容が必要でしょうか。

○委員

だからそういう一つの金が出るとか、金を取りに来るとか、何かそんなゴールドラッシュやないけど、そんなことでもない全体に沈んでいきよる中で、よその近隣が負け組みで、この加西市だけが勝ち組みいうたら、こんなん書いとるぐらいのことでは絶対勝ち組にならんと思う、僕は。

○会長

思い切った案が欲しいというのは確かでございますので。

○委員

日本はどんどん非常事態やからね、市長さんもそない言うてはるのやからね。

○会長

ある程度人口がないとなかなか経済も活性化いたしませんし、それからこれだけの様々ある資産を支えていくためにも、ある程度の人口は要るだろうと。恐らく5万人という考え方の中には、今ある加西の持っている資源を支えていくための人口として5万人が要るだろうという。

○委員

子育てをもっと支援をやるとかね、若い人に。何か特別なやつを出さんとやね。

○会長

そういうアイデアが欲しいというのは最初に申し上げたとおりでございますので、ありがとうございます。どうでしょうか。ご質問でも結構ですし、あるいはこういうアイデアはほんと大事だと思いますので、いかがでしょうか。

何かもし税金半分にしていくアイデアはなかなか難しいかもしれません。アイデアでも結構です。

○委員

やっぱり若い人の働くところですかね。工業高校生ですが、今度卒業させて、さあどうするかといったときに、過去こういうところに就職してますというのを見ると思うので、なかなか難しいかなという気がしますね。農業高校とかで学んでも、それでじゃその学んだことを生かして農業の仕事につけるのかとなると、必ずしも満足できるようにはなっていないと思うので、やっぱり勉強したことが活かされるかなというふうに、それでちゃんと生活できるだけの収入を得られる仕事にやっぱり親としては就いてほしいとも思うし、そういったことが実現できれば、よりいいのかなと。やっぱりそれができないと離れざるを得ないという気はしますね。

○委員

でも、さっきの話があったんやけども、これは市外から来た人が6割やろ。だから、加西は昼の人口のほうが多いんです。珍しいでしょう。60%は外から働きにきているということなんです。

だけでも、外から通ってはっても、家もあってなかなかここに住んでくれと言われへんわな。それで、何か特別のことをやらないと。だから、企業さんは結構しっかりやってて、ちょっと給料は安いかわかんけど、我々もそれなりにやって、随分だからよその市から来てますわ。新人社員が最近ではちょっとここに住むようになってきたけど、ほとんど小野とか加東市に住んでここに住んでくれないというのが2年ほど前までです。去年ぐらいからちょっと変わってきましたな、ここに住むという雰囲気も出てきました。給料は都会に比べたら安いけど、スローライフというのはいいやないか、土地も安いと、家も安い、生活費も安いんですけどね。

○会長

委員がおっしゃっているのは社会増のところで、先ほどおっしゃったのは自然増といえますか、要するにここに定着するという形で、ここにはいわゆる昼間人口が大きいわけですから、その方に住んでもらうためにはこの魅力としてある生活のしやすさというところを、もう少しきちんと整備していくべきじゃないかと、このあたりのご意見だろうと思います。

○委員

だから、高校も北条高校に行くのは百何十人で、今年はちょっと定員より増えたけど、西脇とか小野とか社に行くのが多いんやから、もう高校のときから流出したというのは、それを何とかせないかんということで今市役所と商工会議所が一緒になって基金を募って、もうちょっと教育にお金を出そうというところ、これもう20年したら、その半分以上が北条高校以外の高校でしょう。僕らの時代やったらほとんど北条高校ですよ。皆寄附してくれいうたら、OBやから出せいうたら、しょうがないなあいうんやけども、それが20年してくると半分以上が西脇や小野や社へ行つとるのに、北条高校に寄附せい言うても、わしの母校と違うやないかという雰囲気にもうなりつつありますわ。ここ10年ほど割合が大きくなってくると。だからいろんなことをこつこつやっていかないとかなかなか、その辺は市長さんと連携でちょうど今年からやり始めたところなんです。

○会長

先ほど、高校生の卒業後という今高校が一つターゲットかなというのは確かに面白いご指摘かなというように思います。ちょっとほかの方のご意見も一回伺ってもやってよろしいですか。どうですか。ほかの方もご意見とかご質問とかあればお願いいたします。いかがでしょうか。

○委員

私のところも娘が2人なんですけれど、1人は結婚して市外に出てまして、もう1人は独身で短大上がったあと仕事をしてるんですけど、神戸で一人住まいをしています。結婚しないんでこっちに帰って来たらわって言っても、仕事がない。ちょっとお洋服の仕事しているので、ショッピングモールがあるやんと言ったら、地元のショッピングモールではあかんいうて。そんなんいうたら帰ってこられへんないうて、年がいくばかしやないうて結婚もしないし、ちょっとほんまに今の見本みたいな。それで、私とこは女の子2人やから跡取りもいなくて、もううちの家は老人ホームみたいに、おばあちゃんと私ら夫婦、細々と暮らしているんですよ。これではいかんかっていつも本当に思いますわ。

鵜野町飛行場跡、トマトのあれができるでしょう。あの横にアウトレットでも来へんかというて、アウトレットでも来たら、三田とか垂水とかでも皆結構行きますやん、車に乗って。アウトレット

でも来てくれたら、山陽自動車道からも中縦からでも入れるでしょう。あの広い飛行場跡、トマトも見学してもろて、戦争跡も見学してもろて、いいん違うかなと家の中で話してるんですけど、田んぼが飛行場にあるからね。私とこのね。そこの側なんですよ。いい値で売れへんかなあというて、もうそれも望まれへんし、北条もこのままぼしやっていくのかなと思って、もう20年後の将来、余り希望はしてないんです。あきませんね。

○会長

おっしゃってるのは大変大事なところで、まず働く場所を最初におっしゃったところで、それをどうつくっていくかでやはり一つには外部からの資金を、資本をきちっと来ていただくような、これはちょっと規制緩和とか、これも市長なんかもおっしゃってた規制緩和などを進めて、やっぱり外部からの資本を入れてもらわなければなかなか来ない。

それから、一方で先ほど鵜野飛行場の話も出しましたが、本来持っている魅力というものをもっとやっぱりきちんと出さないと、来てくれるものも来てくれないんじゃないかという、こういうご意見ですね。その地域に魅力を発掘していくことが大事だろうということのご意見だろうというふうに思います。他にいかがでしょうか、何かどうでしょうか。

○委員

若者から話してもらおう。

○会長

ありがとうございます。そういうふうに言っていただくと助かります。じゃお願いいたします。私が会をやるときは、必ず一人一言ずつしゃべってもらいますので、よろしくお願いします。

○委員

私の家も1歳の子どもがいるので、子育ての部分は力を入れてもらえるといろいろ助かるんですけども、青年部自体を見てみると30代の結婚率が非常に悪い。それでは次の会社を経営していけなくなるのではないかなと思われるような状況になっているので、結婚率を上げる施策に力を入れてもらいたいというのが、私の思い、青年部の思いもちょっとあるんですけども。

○会長

青年部で何かそのあたり取り組んでおられたりはされてるんですか。

○委員

それで、今年度その取り組みを行う事業をしようかなと考えてるんですけども。

○会長

婚活的なもの。

○委員

それをちょっとやろうかなとは考えてますけども、実施できるとかかどうかはちょっとまだわからないです。

あともう1点お聞きしたいのは、このアクションプランが出ているのは、今考えられているものですかね。

○会長

これは先ほど言った事例としてというふうに、先ほど最初にご説明があったと思うんですけども、あれはあちこちで同じようなことで、要するに恐らく今ほかの地域でもやっていたりとか、あるいは国などで先進的事例ですよというものを紹介しているものの中で、加西に合うものを選んで挙げられていると思います。

○委員

それで過去、今までやったものがずっとあがっているような感じにしか見えないので、その辺がちょっと。

○会長

例えばどんなものなんですか、その過去は。

○委員

いろんなところが全部過去のものからと、今やってる施策以外のものを印を入れてくれって何かいってもらいとなると何か出てくるのかなというのがあるんですけども。

○委員

1つね、僕の住んでる泉地区にその広原町というのがあります。広原町というのは、僕らのときで30戸しかなかった。もう非常に僕ら別所町いうたら7、80戸あるんだけど、運動会をやるといったって2つの越水町と広原町が一緒ならないとできないような、生徒さんがやっぱり少ないからね。30戸いうたら。ところが今60戸になっとる。

何でかいうたらね、そこの川から向こうが都市計画では無指定なんです。うちの上野工場の近くに川がありますやんか。川から向こうは無指定だから家もぼんぼん建って、結構、新しくだから本当は今からいうたら、あんなハイカラな家がないが、結構そういう家が多い。何でかいうたら、その人らが結構建てやすかったら。田んぼやなんかやったら安いもんや。ここらで土地を買ったら10万円も15万円も要るけど、田んぼやったらもうほんま1坪1,000円かね、そんなところで結構川の向こうなんかずうっと建っていきよるわ、道の横も、奥なんかもね。そんな事例もありますわ。それ一つ参考になるやないかと思うな。

だから、この加西市というのは宅地が少ない。今地権者で中学校まで行っとったら農地もしたるとか言うところけども、まだもう一つそれもよくわかってないやないかと思う。いい制度をつくってもろとるねんけど、一般の市民さんの理解度が少ない。だから無指定のところはもっと建つか、そこに結構集中しとるね。倍になっとるところがあるのやから、僕らのときからいうたら。人口が減ってきてよるのに、それも1つの例がありますね。そのいわゆる農振地域。

○会長

そうですね、先ほどちょっと規制緩和の話をしたのは、多分そこら辺の話に入ってくると思うんです。こちらに来る方が結局来られるためには、規制がきついところがちょっと緩和していかなき

やいけないところがある。これは恐らくほかの自治体も同じように規制緩和の話が出てくると思いますし、兵庫県全体が戦略特区という形になっていますので、そういった方針を出していけば、そのあたりは県としてもバックアップは可能だだと思いますね。

○委員

だから、できんようなことでもむちゃくちゃのことでも言うてやってもらったらいいいやね。使とか市の職員には何とかできんもんな。そういうふうなことは書かれへんもんな。それでやってもらったら、恐らくほんま5万人いうたらえらいことやでこれは。特別な何かいろんなものが3つも4つも出さないと、いつもおれは市長とけんかするんやけど、何を考えとんか知らんけど、これ大変ないいことやけどね。

○委員

私も昔から加西に住んでいるわけではなくて、5年ほど前に転勤してきたんですけど、うちのところで単身赴任者が非常に多くて、その人たちが本当にこっちに来てもらえたら一番いいのかなと思いますけど、やっぱりもともと居てたところにご家族がいたり、特に問題なのはやっぱりご両親と同居されてたりとかした場合に、ちょっとなかなか連れてこれないという状態があるのかなというふうには思います。

あとその転勤をしてきて、こちらの地域とのつながりというのが余りないというのはあるのかなと感じています。ただ、いろいろ聞いていると隣保とかそういったところがないところからきた人にとってはちょっと重たいというところもあったりして、ちょっとそういうところはあるのかなというふうには感じます。

あと、今後5万人をめざしていったときの話なんですけれども、いろいろ転出があるのかなと思っていて、出生率を増やすといたら子ども増えると、あと今それで住んでる方の年齢が上がっていったって、人口がお年寄りが増えてというふうなところでの対応もまた残ってはいくと思いますし、そこでどこに力を入れたらいいのか、まずどこに最初に力を入れて、でも動かしたらいけないところもあってという、ちょっとそこら辺がこの資料を見て余りイメージができないと思うんですね。高齢化は最近報道もよくされてますけど、認知症とかそういったところも結構大変なんだというふうに感じていて、いろいろと課題があるのかなというふうには思っていて、ちょっと何かアイデアがあるかというところなんですけども、先ほど言われてた税金半分というには非常にインパクトがあっていいかなと。特に、その後に言われていた若い方に対しての税金半分というのは非常にインパクトがあるかなとは思いました。

○会長

ちょっと課題、先ほどの単身赴任者の問題と地域とのかかわりとか、ここでも幾つか具体的なプランの中にはやはり地域が核になるような部分が結構ありますので、それがいいように働けばいいわけですけど。かつてはこのコミュニティの中でおせっかいだとかいろいろあって、それがそれでそれなりに安定的なコミュニティを形成するのに役立ったわけですけども、急激な経済成長の中でそういったものが一部破壊されてきた中であって、それに慣れてしまうと今度はなかなか重かったりするというのがあるかもしれませんね、確かに。それはよくわかります。ありがとうございます。ほかどうでしょうか、ご意見ありますでしょうか。

○委員

私はアイデアには大したことはないんですけど、先月4月から加西市に引っ越してきて北条町に住まわせてもらってるんですけど、すごい住みやすいまちだなと思って、何か活動内容で地域の人に加西市の魅力なんですかと話を聞いて回ってるんですけど、皆さん加西市にはいいところがないとか、魅力は余り無いよみたいな、誇れるところはないとすごくマイナスな意見が多く聞かれるんです。さっきも言っていました鵜野飛行場は全国でもそんなに滑走路が残っているところなくて、すごい資源だと思いますし、網引湿原も県内でも最大の規模で、すごい資源がたくさん私にはあるなと感じていて、住みやすいまちですし、都会もあるし田舎もあって、それが中途半端って言われるデメリットもあるのかもしれないですけども、すごくまちに行きたいなと思って一つのつながりを感じずに、すぐショッピングモールで買いたいと思ったらショッピングモールでも買えるし、地域の人に関わりたいたいとお話したいなと思ったら話せる環境もそろっていて、それはすごい魅力なのかなと思って、でもその人を呼んで5万人にするために人を呼び込むとなったときに、市民の人が自分のまちのいいところに気づいていないと、きっと都会の人にそれをPRすることって難しいのかなと思っていて、市外の人を呼び込むよりも、自分のまちのいいところをもっと再確認するというか、知ることも大切なかなと感じています。

○会長

多分、恐らくこの地域の魅力というのは地域力にどうこう結びつけていくのかというのが課題なんだろうと思います。それについて地元の人でなかなかわからないところは、外の人で見たら大変素晴らしいものがあると。こういうものを地域力にしていかなきゃいけないんだと、ここらあたりを多分ご指摘いただいたんだろうというふうに思います。恐らくそれが、外から来てくださる方に当たるだろうということですから、例えばそれを活かすためにも空き家を使ったお試し居住と、これ実際に2年ぐらいお試し居住をやっていたところも、実際にこのアクションプランの中にも入っていますけども、そういうようなことをやってみるとか、そんなアイデアもあるかもしれません。そういうのをむしろプロデュースしていただくと、それは雇用につながるかもしれませんね。

○委員

私も小さい子が、保育園に行っている子が3人いるんですけど、3年前に働こうと思って何カ所か受けたんですけど、もしも子どもが風邪を引いたらどうするって言われて、やっぱり仕事を休まないでだめだと思いますし、それを言ったらやっぱり休まれたら困るからっていう理由でだめになるところも多くて、だから子どもがいるところは働く場所は結構限られてくるので、もうちょっとそこを何とかしてほしいのと、あと子どもが多ければ多いほど予防接種とか、大分お金がかかってくるので、インフルエンザにしても小さい子は2回受けないとだめやから、6,000円ぐらいかかってくるんですよ、1年で。それで、3人受けようと思ったらもう1万円超えてしまうし、そういうところを負担してもらえたら助かります。

○会長

最初の部分はまさに経営者の方をお願いしないといけないところかもしれません。要するに、まさにこれは企業のこれも我々はダイバーシティと呼んでますが、その部分の意識の問題ですし、それからもう一つはまさに病児保育とか病後時保育とか、充実という社会的な制度もちろん要るんですけども、まさにこのあたり、そういったところをこういった会合で打ち出していくいい機会

だと思うんですけどね。

○委員

商工会議所の総会あたりでもよく話をするようにしますわね。当社も今年2人女性に子供が産まれますねん。その子らは働いてくれということで、働きたいということで続けて来るいうてますけどね。それはだから今言うたように、やっぱりみんなで守ってあげないと、その辺はだからよく商工会議所で総会でもあったら言うとかわ。応援するように、働けるよう。やっぱり働くところがないといかんわけやからね。

○会長

そういう企業が増えていくといいと思います。例えば自治体がそういう企業にはもう入札を無条件に認めるとか、入札制限にそういうことをやってないところはだめとかね。

○委員

税金を安してもらおうとかね。

○会長

ええ、そういう発想で実際はもうそういう企業を助けていくという発想は要と思いますね。他に何かありますか。よろしいですか。経済界からだといかがですかね。

○委員

やはり今自治体、我々もそうなんですけど、ご指摘の総花的な案ですので、出てくるというのがまずそうなるのかもわからないんですけど、やはり先ほどから出てますようにカンフル剤、これは特殊だとか、これはすごいということはやっぱり一つモデルケースとして、あるいはその情報発信として一つアイデアとして何かやっておくことが必要なのかなと思うんですけど、またできないはちょっと別にして、例えば若い人を呼んでくるのは大学そのものを誘致するであるとか、あるいは特区のような形で創業、あるいは起業を支援するような、そういうモールをつくることのできればと思います。そういったこと、特色があって話題性のあるものがひとつ集中的にやるのが必要なと思います。

それと、あと加西市だけということになるとやっぱり人口の奪い合い等の問題、そういったことになっていくんですね。北播3市の連携をして企業を誘致をするとか、姫路の連携中枢都市と連携して何か雇用を増やすような施策を行なうとか、周辺都市との連携が必要なのかなと思います。

○会長

その人口5万人というのは、例えば銀行とか金融機関にしてみればありがたいことはありがたいわけですね、当然のことながら。

○委員

当然、人がいらっしゃらなかつたら商売になりませんのでね。当然そういうことなので、我々自身ができるとしたら金融商品の提供であるとか、あるいはマッチングというようなことで、人や企業の呼び込みといいますか、そういったことになってくるんですけども、それも必要なんでしょう

けど、もう一つ踏み込んだ何か特殊な話題性があるようなことが一つ必要なのかな。

○会長

ちなみに、例えば支店レベルで融資関係なんか相当額を決められるんですか。決裁。

○委員

個別の支店がそれぞれの目の前の案件をさばいていくというんですか、幾らもありますからそれをやっていくんですけど、その商品性であるとか、こういったニーズがあるから先ほども言われていますように、女性に対して優しい企業に対しては何らかの融資をするとかやっていますけど、融資をする金利を下げるとか、そんなこともできると思うんですけど、その辺は本店のほうで考えてやることになります。

○会長

いかがなんですかね。

○委員

そうですね、私どもとしては金融機関ですのでまずは北条金融協会としてこの地元加西市に7行でやってるんですけど、まず相談、いろんなことで相談していただきやすい環境をつくる。何かあったら銀行に、あそこに相談しようというようなことをめざしてやっていきたいというところですね。それと、やはり地域の方々が考えていらっしゃる事のお手伝いを我々はするという事でございます。

○会長

先ほど起業モールのような、例えばそういうアイデアが出ましたけども、例えばそういうようなところには融資だとか、要するにお金の、金融が何でこれに入ってるかという、いかに流通をさせていくのかということで、実はちょっと余談ですけどかなり金融機関からこれに興味を持っておられると私は聞いたんですけども、どうなんですか、そういうあれで言ったら。

○委員

そうですね、やはり地域の活性化とともに、我々のいうたら商売の機会も増えてくるというふうに、恐らく考えておるとは思います。

○会長

最後いかがですかね。

○委員

人口減少、これはある意味では構造的なものでね、やむを得ないと思うんですけども、ただ、ブレーキを要はどれだけかけることができるかということだと思うんです。この資料の中にもありました人口問題研究所の将来人口推計で、北播磨で2010年の人口と2030年の将来人口推計値を出してるんですね。そしたら、2030年、加西市は2010年より17.1%減であると。しかし、小野市は7.5%減で加東市は6.0%減。だからこの10ポイントの差があるということは

確かに人口というのは非常に山が多いとかそういう地形的なものもあるだろうし、あるいは都市部に近い、暮らしに便利だ、そういう立地的なものもあるけれども、しかし加西が小野や加東と比べて神戸から遠いでわけでもないし、むしろ姫路やったら近いと思いますね。だから、地形や立地がすべてではない。手を打てばそれだけブレーキをかけることもできるんだというふうにも、このデータは読み取れると思うんです。

だから、本当にそういう人口減を食い止めるというのは、野球でいうようなタイムリーヒットとか、決定打があるわけではなく、まさに薄い紙を一枚一枚重ねていく地道な努力が求められるのは、これは言うまでもないと思うんです。地道な努力の中では交流人口を増やしていくという、むしろこのほうが私は現実的な方法だと思うんです。交流人口が増えるというのは、それだけその市の活力につながるし、さらにはそれが定住人口に結びつくかもしれない。だから、交流人口を増やすにはというか、その一つ手だてとしては先ほどもお話がありました鶉野飛行場跡地ですね、これを平和公園としてより整備したら、全国に情報発信ができるんじゃないか。

ハーバーランドにある神戸新聞社にニュースポートという施設があります。そこには、震災報道に関する展示品をたくさん置き、説明も置いております。ありがたいことに小学生がたくさん見に来てくれる、見学にね。なぜ見に来てくれるかというと、小学校5年生の社会科の単元に「暮らしと情報」という単元があって、震災のときにどのようにして地元新聞が被災地に情報を届けたかということが、一部の教科書に紹介されてるんですよ。だから、そういった教科書に載ってるということで小学校の5年生がたくさん来てくれます。だから、鶉野飛行場も平和学習ということが小学校でも中学校でもあることやし、それが子どもを、そして大人たちも呼び込む大きな力になるんじゃないかと期待します。

○会長

交流人口の定義って何かございますかね。平成5年ごろに交流人口論というのが国のほうでも言われて、これ兵庫県あたりもかなり言ってたところがあるんですけども、観光とは違ってもう少し定期的に訪れるというのが交流人口のイメージなんですけども、どうなんですかね、そのあたりは。

○委員

観光も広義には含まれるのではないかと思います。

○会長

含めての交流という形ですかね。

○会長

わかりました。実は最近県知事も言った、要は2つ家を持ってもいいじゃないかと、家が余るんだったらね。税金はどうするのとかいろいろあると思うんですけども、いわばダブルレジデンスという議論なんですけども、そんなことを言われていて、それが一つ交流人口と考えたらあったわけなんですけども、先ほどの観光も含めて、要するにここに来ていただくことをきっかけにして定住に結びつけたらどうかと、こういうふうなご意見だと思うんです。ありがとうございました。

○委員

本当に立派な骨子案の説明が最初にあって、こんなものできるのかなという、ほんまのそこそう

思いました。非常に理想的でいいんですけども、間口が広過ぎてできればいいに越したことはない。国にしても、これを読んで見ると「国民の希望が実現すると出生率が上がる」って当たり前やそんなもんね。それを今考えないかん。

最初、他の委員からきついお話があって、それはいいことを言うてやなと思ひよったんですけど、区長という仕事柄とか役目柄、地域を見渡してみたときに、今加西市内どこの校区をとってみてもやっぱり一番区長の頭を悩ましとるのは、いわゆるこれでいくと限界集落になってしまうかもしれへんというところが非常に多い。具体的に言うと、先ほど話に出ておりましたが、私とこもそうなんですけども、子どもができて一生懸命大きくして、それで子どもの希望をできるだけかなえてやるように教育費もしっかりかけてやるんだけど、残念ながら大学はもう市外にしかないわけで、そこへ行くとやっぱりその近隣、あるいは自分の勉強したことの活かせるところでやっぱりどうしても居ついてしまう。何年かたつとだんだんその仕事も面白くなるだろうし、社会的な関係、地位もできてきてますます離れられなくなってしまうというふうなことで、いわゆる息子や娘のいない年寄りだけの家というのが非常に今は増えてるわけです。

これも当然何年かしたらその家は空き家になっていく、こんな当たり前前の話ですわねということになんですけども、そうすると今一番私らで困ってるのは、例えば地域防災の上で、消防団に入る若者が、入れる子がない。私とこの町もいわゆる定員で13人は登録してます。けども、そのうちの半数は市外に住んでいます。市外に住んでいるんだけど、いわゆる長男だから親にしてみればいずれ帰ってきてくれるやろというのもあるし、友達関係で近いねんから帰ってこいよと言われて、一応名前を置いてるんだけど実際その日ごろ活動できるのはそのうちの五、六人しかいない。その五、六人にしてもいわゆる就労の条件が非常に厳しくて、2交代3交代のところに行ってるから、朝の演習等はちょっとこらえて。それでもええねやったら入らしてもら、入ってあげるわみたいな感じで入っている人がいて、もう本当にサイレンが鳴ってぱっと帰ってきてくれる消防団員は1人か2人か、極端な話そんなもので、全然いないところも当然あるという。

そうすると、今一番喫緊の課題としてやっぱりその今出てきているかつて家におったんやけど、今外へ出ている子どもをどうしたら呼び戻せるかかという視点でやはりまず考えるということも、一つ重要な視点じゃないかなと。やっぱりその若者にとって、地域で家で暮らすための条件としてまずあげられるのは仕事ですわね。その仕事はちゃんといろんな仕事があって、あんな仕事嫌や、こんな嫌やと、そのこと言うとならそんなもん仕事なんかあるわけがないわけで、でもちゃんと生活できる、入り込める余地が市内であるのというところになると、どうもはっきりしない。先ほど言われてましたね、いろんな条件をつけられたらもうあきらめざるを得ないという部分がありますと言っておられた。

今大阪から通勤1時間圏内という話もありました。1時間かかるのやったら、私の息子も大阪におりますけども、そんな帰ってきませんわ。それは大阪で今おるのやから、そこでおるほうが電車で10分も乗れば会社に行けるんだから、それはそれがいいのに決まってる。それでも帰ってくるといふことになる、やはりもっと違った魅力がやっぱり、あるいは条件が必要なわけで、言われている仕事にしても生活にしても都会と同じ尺度で見たら、そんな勝負は負けるのに決まっちゃいますよ、それはね。

例えば、今子育ての話がありましたけど、今一番劣っているというか、どうしてもネックになっているのはいわゆる子どもができたらず児制度がきちっと整備されてる会社が幾つありますか。経営者の方に聞いたらわかるやろけども、そうなったら恐らくかなり少ない、あるはず。あると思うんだけど非常に少ない、そんなこともある。それから、いわゆる今加西市でも病児の保育を

やってますと言ってるけど、一つの病院だけですわね。そこで、何ぼの子どもが見れるねんてといったときに、それはやっぱりもっと増やしていかんことには無理でしょうね。そうすると、そういうちょっとした若者のいわゆる生活、仕事を持ってる人のニーズに対応するだけでも、それだけのことをせなやっぱりあかんわけで、それでもまだ多分足らんと思いますけど、もっと必要やと思うんですけども。

あとそうすると、いわゆる5万人都市再生をめざすというそういう大きな目標を立てたときに、やっぱり5万人都市のどの辺で調整していくのやと。どの辺の人をターゲットに増やしていく、呼び戻していくことができるのか。市外にも住んでいる人を連れてくるのやったら、これはいわゆる取り合いやわね。もともと家におってそこから出ていった子呼び戻すならば、呼び戻せるだけのやはり条件面、あるいは魅力的な面がやっぱり必要ということになってきますわね。

それともう一つ、やっぱり今何が言いたいかというと、やっぱりそういうまず市として我々として考えなあかんのは、どの辺の人たちの希望というか、満足度を高めることが全体のいわゆる市としてのイメージアップにつながるんだろうということが必要やと思うね。今、1300年祭の話とか、それから鶉野町飛行場の話、例えば1300年祭をやったことで新聞にもいろいろ取り上げていただいて知名度は上がってると思います。しかし、もう1カ月たってもう大分忘れとるのと違いますか。ばあっと盛り上がったあそこがチャンスなわけで、あの加西市という名前を、いわゆるブランドにしていこうと思ったら、やっぱりその時点でもっと何かをせんことにはだめなわけで、ぼーんと花火を上げたら、ぱちぱちぱちぱちと消えてますわ。消えた後は真っ暗です。

結局、だからアドバルーンをぼーんと上げたって、そこに上がってるだけではあかんわけで、それがずっとどこかへ気球みたいに飛んでいって、よそから見えて初めて加西のイメージアップ、ブランド化が図れるということになるわけで、飛行場にしたらってトマト団地と戦争遺跡、遺産だけですかという問いかけに、どう答えるかという。結局、トマトの2ヘクタールもある温室が2つできますと聞きますけども、じゃそれどんな恩恵があるのと言われたら、立派なものができるんですよ。それで近所の鶉野の人が、じゃ私らにどういうメリットがあるのと言われたら、それは立派のができますわではあかんわけだね、やっぱり戦争遺産にしたってそうやと思うんです。そこにいろんな人がやってきたら、やっぱりそこでお金を落してもらうのが大事なのか、もっと加西市を宣伝するためにやるのかというところも、やはり考えなあかんわけです。

○委員

そのとき調べてもらいたいのは、大手家電会社がなくなっていわゆる戦後加西市というのは大手家電会社を主体として大きくなってきたまちなんですわね。僕がだから知る人はもう四十何年前やけども、そのときはたしか大手家電会社で1,600人ぐらい社員がおった。関連企業で5,000人ぐらいやった。そのときは、多分だからこのハイツの家なんかでもほかのところから来はって大手家電会社北条に勤めて、課長さんとか部長さんになって住みはった人が結構そこで流入してきよったんやと思うんやわ。そこは大きな力を持っとったから。大手家電会社の発祥の地が北条やったら、ここからいろんな大手家電会社が大きくなって東京や洲本へ出ていっても、ここで物づくりを勉強した人が行って、そういう基地やったわけで、それがなくなっちゃってるわけですね。その辺の恐らく、だから昔やったら僕らが高校のときやったら、どこに働くいうたら大手家電会社がいいわいうて、おまえ電気屋やからその下請けやというようなことぐらいのことで、今やったら市役所、農協とか、ちょっとおくれで電気・石油・ガス機器会社さんと言うかわかんけども、そんなような順番になって、その辺はもうちょっとアピールせないかんということで、調べてもらいたい

す。

ただ、関連企業、我々も含めて搬送機器会社さんとか建設用油圧機器会社さん、自動車用部品会社さん、立派な会社が随分増えてきとる。その大手家電会社がなくなったんだけど、みんな足したらそれぐらいの売り上げになってきてるんだけど、その辺のアピール度が非常に悪い。働くところがあるんだけど、何か働くんやったらもう農協と市役所しかないやないかと。

それで、商工会議所が3年前から小学校の子をワンコインでフラワーセンターで昼飯を食わしたろうと。それで、工場を2件、3件回って、それで僕らが行ったらあと十何年したら帰ってこいよと。うんと勉強ができれば帰ってこんでもいいわいうて、東大か京大に行って官僚になれいうて、一部上場の企業に行けるんやったらいいわ。行けへん子は帰ってこいよ。これちょっと給料は安いけど、みな土地も安いから生活できるでと。そんな話をおっちゃんがしよったのを覚えとけよということ子どもに言うとなやけど、そういうことなんです。だからその辺のことを働くところがあるんやと。だから無い無いいうて言われとる、そうやけども結構探してみたらあるんだけど、それがいわゆるミスマッチになつとると。ただ、製造業やからこれだからもう一つ言いたいのは、このいわゆる経済特区にしてもろて、外国人労働者を3年やけど5年にしてもらえと。そしたら、今でも500人来たらもう2年ふえたら1,000人ぐらい増えよるわけですね。

それで、物づくりいうたら今言われるようにきれいな仕事はみんなしたい。そやけど油で汚れたというのは、大体物づくりの人は多いから、なかなか求人というのは少ないから、外国から労働者が来とる。でも、給料は日本の給料払いよるんやから、住んでもろたらもちろん市民税も払わなあかんし、お金もつかってくれるやろ、その辺のことで何千人とか何か1,000人増やそう、2,000人増やそうとか。この前商工会議所でやったのは、農業の田んぼの稲をつくるいうたら研修生はあかんのやて、単純労働すぎて。この辺も緩和してもらおうというような、米をつくらんとおられへんのに何とかありませんと。それは困ったことや、法律を変えるわけにいかんしと言ったんやけども、そんな問題もありますわ。その辺もいろいろやってもらうと、いろいろ切り口があったらその辺ここで500、1,000いうことで、割り振っていかないと、これは夢のようになってっちゃうわな。

いろいろ考えたら、特に僕は今思いよったけど、大手家電会社なんか大きな恩恵をしたと思いますわ。それが消えちゃって、リチウムイオン電池工場はどっちかいうと大勢おるんやけども、もうみんないわゆる臨時の社員みたいな人で正社員が少ない、その差がありますわ。

○会長

ちょっともう時間なので、ありがとうございました。取りまとめさせていただきますと、先ほど取りまとめのご意見いただいてたんですけど、まず1点目は5万人という人口規模については大体皆さんこれをめざしていきたいという、かなり大きな意向があるのではないかと私はちょっと感じましたけども、それを踏まえてじゃ具体的にどのような政策を打っていくのかということで、まず1つ言われましたのが、要するに自然増のための働く場を確保していくような、そういうような政策が要るだろうという、こういう考え方ですね。

女性の正規雇用の継続であるとか、マッチするような仕事の確保といったもの、結婚した後でも働けるとかそういったものによって自然増を図っていけるべきであるというような話、それから何度か出てきてますが、要するに社会増で、外から来ていただく、それにはまず働いていただく、あるいは交流で来ていただく、そういう形でこの地域にきっかけを持っていいただいて、それをきっかけに定着していただく、そのためには働く場所がこれだけあるというような、さっきおっしゃっ

たようなところも含めてPRもしていかなきゃいけないでしょうし、ある程度規制を緩和して住宅提供できるようにしなきゃいけないだろうと、このあたりのお話が出たんじゃないか。その中で、高等学校とかそういった今外からとってくるんじゃないかと、ここから出身で出ていった人に帰っていただくという、このあたりが非常に重要ではないかというようなご指摘があったかなというふうに思っております。

あと、鶉野飛行場にしてもいろんな資源があるので、その資源をどうやってアピールしていくのかということで、1つには歴史的なものの、先ほど風土記1300年もそうですが、そういうものもあるし、あるいは、起業モールのように全く他でやってないけども、ここではやってるよというような新しい資源を提供していくというのも考え方としてはあるんじゃないかと。このようなところが、今日ちょっと出てきた意見かなというふうに思います。

ちょっと先ほど事務局のほうでまとめたいただいたこのアクションプランにも合致するようなところもございましたし、それから考え方として目標で示されているところの中でいくと、今日出てきたのはこの9ページのところに基本方向というのがあって、目標というのがあるんですが、その中で人口増対策のところは先ほど言ったようなところでかなり出てきたのではないかなというふうに思います。

あと、しなやかで元気な地域づくりのところで、若干まだこれ議論が出てないのは災害のことがまだ出てないんですけども、加西のブランドのイメージというところも先ほど新たな発掘などで出てきましたので、このあたりちょっときょう出た議論を基本目標に合わせながら、例えばアクションプランをもう一遍ちょっと整理して見直すとかいうことができれば、次のステップに進めるのではないかなというふうに思いましたので、そこら辺ちょっとまた事務局のほうでお願いいたします。

それから、僕は税金半分って非常に面白いと思うんですけど、これはご存じかどうか、住民税はなかなか国のほうで標準課税、標準税率というのが決まってて、なかなかこれを逸脱するのは難しいんですけども、しかし思い切って若者のためにということであればやれなくはないですし、減税よりも給付をというのはどうも国のほうの方針もあるみたいなので、そこら辺がどこまでできるかわかりません。ご存じのとおり、消費税10%のときにどれを減税するかで今もめてますけど、なかなか減税というのは難しいところの中で、給付をという政策が主になるかもしれませんけど、ただ、非常にそういう思い切ったこととしてアドバランを上げて、それでここすごいなあと思わせるというのは、ある意味ほかよりも目立たないがゆえにやれるんじゃないかというのは、今日出てきたところですから、ちょっとそう目玉というのを絞って考えていただくというのも大事なかなと思います。目玉というのをひとつ考えていただくと。それは今日出てきたご意見じゃないかなというふうに思います。

すみません、ちょっと時間が大体来てしまいましたので、何かこれだけは言っておきたいという方がおられたら、是非ともお願いします。

○委員

今度、まとめた書類は先に、今回は1回目やけども、先に送ってもらってまとめてもらって、また質問があったら事務局で調べてくれとか、会議が少ないからね、そのほうが効率的やと思う。短いところでやらないかんようになってきたら、ここで一々説明してもらわんでも読んどいたらわかることやから。それで、質問事項はもうこっちへ送っというて回答を持ってくるとうとしたほうが効率がいいんじゃないかなと。

○会長

厳しいスケジュールの中ですけど、もし事前に資料を送っていただければ事前にやりとりができるのであれば、その事前のやりとりのための入口、FAX番号だとかメールだとか、またちょっと皆様に通知をしてくださって、会議の回数が少ないのであればそういった工夫で議論を効率化してほしいというのは確かだと思いますので、少しこれはご検討いただけますでしょうか。

それじゃすみません、お忙しい中、遅くまでかかりましたが申しわけありませんでした。一旦私の役割はここまでということでございますので、事務局のほうに司会のほうをお返しさせていただきます。

○事務局

ありがとうございます。非常に長時間にわたりましていろいろとご意見を賜ったこと、感謝申し上げます。今日のご意見を踏まえて、今日お示したのはアクションプランもあくまでも例示でございましたので、なかなか目玉的なものというのは本当になくて、イメージはいまいち抱いていただけなかったかもしれないんですけども、今後、今日一定のご理解をいただいたこの方針ですね、基本骨子というものに基づいて、少し総合戦略に近づいたようなものを次回にはお示したいと思います。それと今委員にもご助言いただいたように、事前に確認いただく、あるいは若干の意見交換とか質問照会を対応をさせていただくというような形で進めてまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いしたいと思います。

4 閉会挨拶

○ふるさと創造部長

どうも本当に長時間ありがとうございます。気がつけば9時前ということで、本当に各層、各界で代表の方から本当にお一人お一人から貴重なご意見をいただきました。特に、私の心に残っておりますのは、思い切ったアイデアを出さなあかんというのは、本当に強く心に残っております。なかなか行政はそういったところは不得意なところがございまして、いろんな意味でまたご協力いただければありがたいと思います。今日のご意見は、取りまとめまして、また私どものほうも検討しまして、次回7月、8月にまた2回目があるということですが、それまでにきちっとまたお返しをさせていただいてご意見を賜りたいと思います。

本当にありがとうございます。